

くだいくどち
下い口説
(本調子)

1. さていむ旅寝ぬ假枕
たびに かいまくら
ゆみ さ くち
夢ぬ覚みたる心地してい
ちぬち ちゆう うむ
昨日今日とつは思いどつむ
むはや くじゅうぐわつ
最早九十月なりぬれば
2. やがてい御暇下さりてい使者ぬ面々
ういとつまくだ ししゃ みるみる
みなする びざいていんどーふ うが
皆揃てい弁財天堂伏し拝でい
3. いざや御假屋立ち出ぢてい滞在ぬ人々
うかいや た ん てぜ ふいとつびとつ
ふい つい ぢゆや は た わか
引ち連りてい行屋ぬ浜にてい立ち別る
4. 名残り惜し気ぬ舟子共喜び勇みてい
な く う ぢ ふなくどつむゆるく いさ
ふ あ ゆうえ さかじいちみく ま
帆を揚ぎぬ祝ぬ 盃 廻る間に
5. 山川港にはい入りてい船ぬ検み済んでいまた
やまごーんなどつ い ふに あらた すい
いかいふいぬ まふ ふい
錨引ち乗し真帆引きば
6. 風やまとつむに子丑ぬ方佐多ぬ岬ん
かじ にうし ふう さだ みさち
あとつ み しちとーとつなか やすいやすい
後に見て七島渡中ん安々とつ
7. 波路はるかに眺むりば後や先にん
なみじ なが あとつ さち
とつむふに ふ ひ つい はし い
友船ぬ帆引ち連りてい走り行く
8. 道ぬ島々早過ぢてい伊平屋渡立つ波
みち しまじま はやすい い ひゃ どう た なみ
う す ざんばみさち なら
押し添いてい残波岬にはい並でい
9. ありあり拝み御城むとつ弁ぬ御岳ん打ち続き
うが うしる びん うたき う ついづい
(エイ)袖を連にてい諸人ぬ迎えに出ぢたや
すでい ついら むるふいとつ んけ ん
みーぐしく
三重城

旅寝の仮の宿の生活も
一瞬の夢を見ていたように過ぎ去り
旅立ったのが昨日今日のように思えるが
もう9月10月の季節になっていた

やがてお暇を出されて
使者の皆が揃って弁財天を伏し拝む

いざお仮屋を出発し 薩摩に滞在中の人々と
連れ立って行屋の浜で別れを交わした

名残惜しそうな舟子たちだが
喜び威勢良く帆を揚げた
祝いの盃が交わされる間に

山川港に入って船の調べも済み
錨を引き上げ帆を張ると

風は北北東からの順風で
佐多岬も後に見るほど進み
七島灘も無事に過ぎた

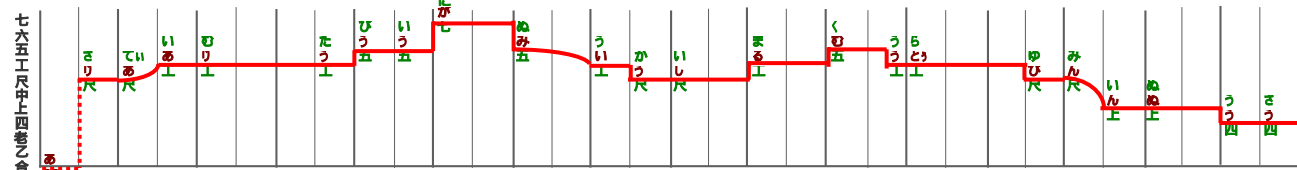
波路をはるか見渡すと後にも先にも友船が
帆を揚げて快調に走っている

途中の島々を早くも通り過ぎ
伊平屋の海峡の波も乗り切って
残波岬を横に見る

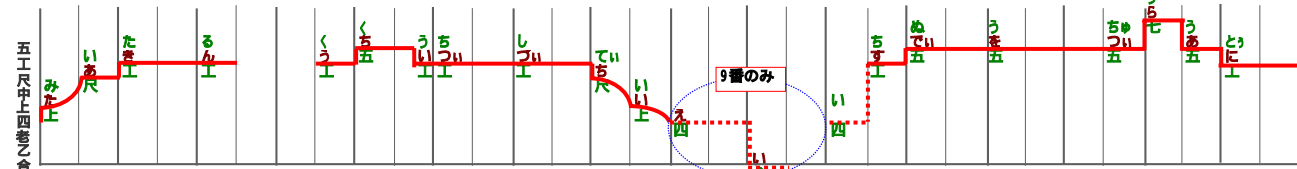
ほら、首里のお城が見えて
弁が嶽も城に続いている
大勢の人がにぎやかに迎えに出ているのが
三重城だ

< 舞踊 >

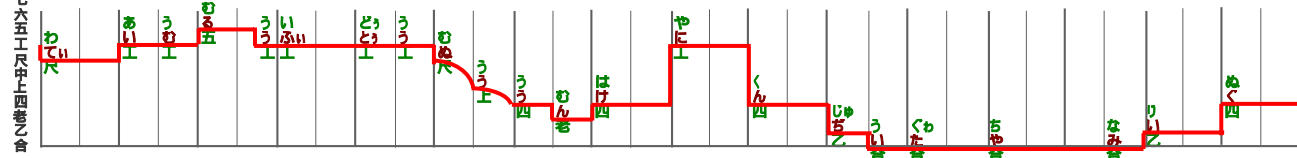
工 四 乙 四 工 四 乙 四 尺 工 四 乙 四
 合 尺 工 合 尺 工 五 七 五 工 尺 工 五 工 尺 上 老 上
 あ さり てい あ むり たう びう いか ぬみ かい し まる くむ うらう 尺 ゆび みる いん ぬめ 上う さう



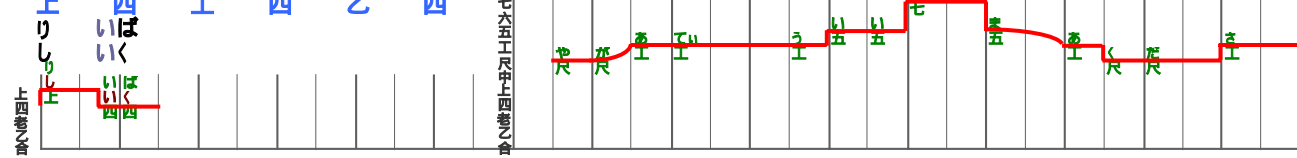
尺 工 合 尺 工 五 工 尺 乙 四 (乙 合) 合 五 工 五 七 工
 み いた るん く うち しい ちす ぬでい うを ちゆう ついら とう
 た あ き ん う ち づい ち い (え い) ちす ぬでい うを ちゆう ついら とう



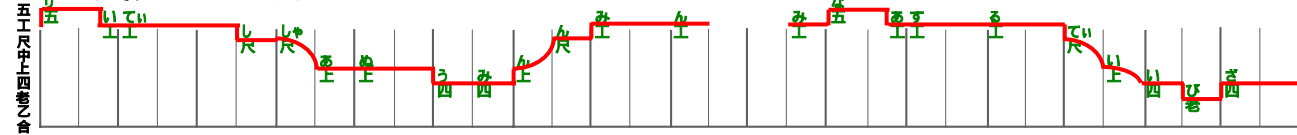
尺 工 五 工 尺 乙 四 合 尺 工 五 四 乙 四 合 尺 合 乙 四
 わてい あい うむる ういふい とう づい むん はけ やに くん じゆい ぐわ ちや 合 なみ りい 四 ぬぐ



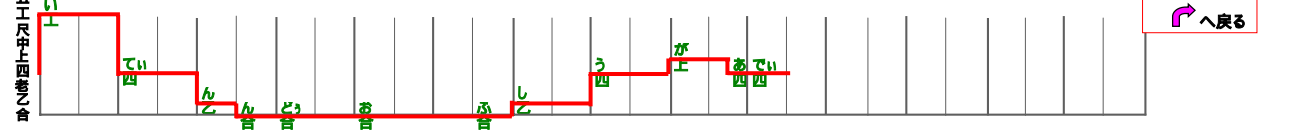
合 尺 工 合 尺 工 五 七 五 工 尺 工
 やいな やか なみ しがぐ まじみ ち ああ あい い 合 てい りご やじぬ うう うん まはし 五 いか しな とる ま 七 とう いぢ とむ かじ 五 まや めに にに ま 工 ああ うい いあ 尺 だち ない うが や 工 さん く いし むすい



五 工 尺 上 老 上 尺 工 合 尺 工 五 工 尺 乙 四 合 尺 工
 りち いてい して しゃ あぬめ 上 うう 尺 んと 工 みん 合 んと 工 み 五 な 工 あす 尺 る 四 てい 合 い 尺 び 工 ざ
 どう いてい して げく あえういぬめ 上 うう 尺 んと 工 みん 合 んと 工 み 五 な 工 あす 尺 る 四 てい 合 い 尺 び 工 ざ
 りぬり いてい して げく あえういぬめ 上 うう 尺 んと 工 みん 合 んと 工 み 五 な 工 あす 尺 る 四 てい 合 い 尺 び 工 ざ
 ち いてい して げく あえういぬめ 上 うう 尺 んと 工 みん 合 んと 工 み 五 な 工 あす 尺 る 四 てい 合 い 尺 び 工 ざ



五 四 乙 四 合 尺 合 乙 四 上 四 工 四 乙 四
 いぬめい とち ばい いてい して げく あえういぬめ 上 うう 尺 んと 工 みん 合 んと 工 み 五 な 工 あす 尺 る 四 てい 合 い 尺 び 工 ざ



3番~8番
 へ戻る
 9番
 へ戻る

1. さていむ旅寝ぬ假枕 夢ぬ覚みたる心地して 昨日今日とは思いどむ 最早九十月なりぬれば
2. やがてい御暇下さりてい使者ぬ面々 首揃てい弁財天堂伏し拜でい
3. いざや御暇立ち出ぢてい滞在ぬ人々 引ち連れてい行置ぬ浜にてい立ち別る
4. 名残り惜し気ぬ舟子共喜び勇みてい 帆を揃ぢぬ祝め 盃 廻る間に
5. 山川津にはい入りてい船ぬ様み済んでいまた 船引ち乗し真帆引きば
6. 風やまとむに子丑ぬ方佐多ぬ御ん 後に見て七島渡中ん安々とう
7. 波路はるかに感むりば後や先にん 友船ぬ帆引ち連れてい走り行く
8. 道ぬ島々早過ぢてい伊平屋渡立つ波 押し漲いてい残波津にはい並でい
9. ありあり拜み御城むと弁ぬ御岳ん打ち鏡き(エイ) 袖を連れてい廣人ぬ迎えに出ぢたや三置城